

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第22回『継続し、後世につなげる～ 『後世への最大遺物』 ～』

今週、筆者のブログを読まれた方から、「しっかりと活動が根付いていますね。動物園、花畑、先生の活動の中に癒しを見出しているのでしょうか。継続し、後世につなげるのが先生のお役目ですね・・・」、「我が家を始め、先生のブログを楽しみにしておられる方は、コロナ禍になり、ますます増えていると思います。先生のブログや著書は、『後世への最大遺物』になりますね。」との、心温まる励ましのメールを頂いた。大いに感動した。

演説は「演者の人格にあり」（新渡戸稲造）、クラークについて「学問に Interest を起す力を持った人でありました」（内村鑑三）、ダルガスについて「その面に微笑みを讃え その首に希望の春を戴きました。」（内村鑑三）との 新渡戸稲造（1862-1933）& 内村鑑三（1861-1930）の言葉が鮮明に蘇って来た。今秋（2020年11月20～23日）「樋野先生と行く北海道 函館・札幌・小樽の旅」（Go To トラベル事業支援対象）が、企画されるようである。新渡戸稲造『武士道』発行120周年記念/ 新渡戸稲造 国際連盟事務次長100周年記念/ 新島襄 没130周年記念/ 内村鑑三 没90周年記念と謳われている。筆者は、講演『クラーク、新島襄、内村鑑三、新渡戸稲造を学ぶ旅』の機会が与えられるとのことである。タイミング的には、新刊『聖書とがん』（画像参照）の出版記念の旅でもある！ 本当に実現したら、歴史的快挙である！

聖書と がん

「内なる敵」と
「内なる人」



「がんは人の体は侵しても、
心まで侵せない」

樋野興夫

岡山大学名誉教授
がん学内外理事長
新瀬戸稲造記念センター長

イーグレイブ